

## 国士館大学サッカー部員の心理的競技能力の諸特徴

### Characteristics of soccer players of kokushikan University on psychological competitive ability

村上志穂\*, 平工志穂\*\*, 内藤祐子\*\*\*  
前山定\*\*\*\*, 細田三二\*\*\*\*\*

Shiho MURAKAMI \*, Shiho HIRAKU \*\*, Yuko NAITO \*\*\*  
Sadmu MAEYAMA \*\*\*\* and Mitsuji HOSODA \*\*\*\*\*

#### ABSTRACT

The psychological competitive ability is one of the most important factor to perform peak performance in a soccer game. The purpose of this study was to investigate psychological characteristics of soccer players of the kokushikan University. The effects of competitive ability, grades at a university, numbers of years of soccer experience, a position and a lank of past experienced soccer game to competitive motivation was investigated using TSMI (Taikyo Sport Motivation Inventory).

Main findings were as follows:

- 1) Results of TSMI indicated that soccer players of the kokushikan University tend to be higher at the emotion stability and the mental toughness, and to be lower at the competitive anxiety, the attribution to effort and the coachbility.
- 2) From a comparison of the lank of belonged team, player whose competitive ability is higher indicated higher tendency of the emotion stability and mental toughness.
- 3) From a comparison of the grade at a university, a first-year student indicated a higher tendency to the trust in coach and the obedient attitude to coach.
- 4) From a comparison of the level of past experienced soccer game, the tendency was shown that the emotion stability and mental toughness are higher and the failure anxiety and the tension anxiety is lower at players having experience to play higher level match.

*Key wards; TSMI, soccer players, psychological competitive ability*

はじめに

試合における競技者のパフォーマンスを左右する因子として、その選手の技術・体力・精神力が

考えられる。特に、本来備わっている実力をいかに発揮するには精神的要素が大きく影響する<sup>9)</sup>。最近、スポーツ指導者も技術や体力面だけでなく心理的側面の指導を重要視するようになり、

\* 国士館大学体育学部体育生化学研究室

(現:ヤマハフットボールクラブ) (Lab. of Biochemistry of exercise, Faculty of Physical Education, Kokushikan University)

\*\* 東京大学大学院総合文化研究科 (Dept. of Life Science, University of Tokyo)

\*\*\* 国士館大学体育学部体育生化学研究室 (Lab. of Biochemistry of exercise, Faculty of Physical Education, Kokushikan University)

\*\*\*\* 国士館大学体育学部バスケットボール研究室 (Lab. of Basketball, Faculty of Physical Education, Kokushikan University)

\*\*\*\*\* 国士館大学体育学部サッカー研究室 (Lab of Soccer, Faculty of Physical Education, Kokushikan University)

選手の精神面の強化に力を入れている。

1982年に日本体育協会スポーツ科学委員会の松田らが中心となって体協競技意欲検査 (Taikyo Sport Motivation Inventory:TSMI) 用紙が開発された<sup>4-6)</sup>。これはスポーツ選手を対象に競技意欲を中心とした意識を測定する目的で作成されていて、サッカー選手を対象とした研究もいくつか報告されている<sup>1-3)7)8)</sup>。多くは中高生<sup>2)</sup>やプロサッカー選手<sup>3)7)</sup>を対象としたものであり、大学生のサッカー選手<sup>8)</sup>を対象にしたものは少ない。

本大学サッカー部は200名を超える部員数を抱え、関東リーグにおいて常に上位を占めるトップレベルのチームである。一部の部員を除いてほとんどの学生部員は寮生活をおくっている。しかし、部員の競技レベルはすべて同一とは言い難く、レベルの違いからチームを5つに分割して練習を行っている。

そこで、年齢、生活環境や指導者が同じで競技レベルが異なった場合に競技意欲に関してどんな違いが表れるのかという点に特に着目し、本大学サッカー部員を対象にTSMI調査を行ったのでその分析結果を報告する。

## 方 法

### I. 対象

1998年度国士舘大学サッカー部学生77名 (Aチーム34名、Bチーム16名、C1チーム9名、C2チーム10名、C3チーム8名)であった。表1に被

検者の身体特性および年齢を示した。

### II. 調査時期

平成10年10月下旬～11月上旬の試合前日に調査を実施した。

### III. 調査方法

国士舘大学サッカー部学生に対してTSMI (Taikyo Sport Motivation Inventory:体協競技意欲検査)を実施した。本調査は146項目から構成されており、「目標への挑戦」「技術向上意欲」「困難の克服」「練習意欲」「情緒安定性」「精神的強靱さ」「闘志」「競技価値観」「計画性」「努力への因果帰属」「知的興味」「勝利志向性」「コーチ受容」「IAC (対コーチ不適応)」「失敗不安」「緊張性不安」「不節制」の17尺度に分類されている。また、応答の正確性をチェックする項目も含まれている。

各質問項目は、「よくあてはまる (4点)」、「ややあてはまる (3点)」、「あまりあてはまらない (2点)」、「まったくあてはまらない (1点)」の4段階で回答させた。ただし逆転項目が含まれており、これらの項目では点数配分が「よくあてはまる (1点)」、「ややあてはまる (2点)」、「あまりあてはまらない (3点)」、「まったくあてはまらない (4点)」となっている。

### IV. 分析方法

各尺度別に求めた粗点合計を評価基準に即して

表1 サッカー部員の身体的特性

チーム	人数(名)	身長(cm)		体重(kg)		年齢(歳)		経験年数(年)	
		Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
A	34	174.7	6.4	67.3	5.9	20.4	1.2	13.1	2.0
B	16	174.6	4.6	67.4	5.0	19.7	0.9	12.8	1.1
C1	9	174.3	6.0	65.0	7.4	19.9	0.8	11.9	1.8
C2	10	167.5	5.9	62.9	10.2	20.6	1.8	11.3	2.2
C3	8	170.4	7.3	62.7	7.1	19.1	0.7	8.3	2.6
合計	77	173.3	6.4	66.1	6.8	20.1	1.2	12.2	2.3

スタナイン得点に変換し、この段階点を用いて分析した。17尺度のうち、「目標への挑戦」「技術向上意欲」「困難の克服」「練習意欲」「情緒安定性」「精神的強靱さ」「闘志」「競技価値観」「計画性」「努力への因果帰属」「知的興味」「勝利志向性」「コーチ受容」の13尺度は得点が高いほど競技意欲が高いと判断される尺度で、「IAC（対コーチ不適応）」「失敗不安」「緊張性不安」「不節制」の4尺度については得点が高いほど、競技意欲に何らかの問題があると考えられる。

国士舘大学サッカー部員を対象にチーム、学年、過去の実績（出場大会）、ポジション、サッカー経験年数が競技意欲に及ぼす影響についてそれぞれ検討を行った。分析は、TSMIの各尺度毎に1要因分散分析を実施し、有意な差が見られた場合はFisher's PLSD法を用いて多重比較を行った。

## 結 果

### I. 国士舘大学全体の分析結果

国士舘大学サッカー部全体のTSMIの結果を図1に示す。「情緒安定性」「精神的強靱さ」「闘志」の3尺度で比較的高い得点を示している。一方、「努力への因果帰属」「コーチ受容」の得点は低かった。マイナス尺度では、「失敗不安」「緊張性不安」の2尺度で低い得点を示し、「IAC（対コーチ不適応）」で高い得点を示した。

### II. チーム別の分析結果

国士舘大学サッカー部は、A・B・C1・C2・C3の5チームに分かれて練習を行っている。主に公式戦に出場するのがAチームで、2軍がBチームである。Cチームは一般入試で入った学生で構成されているが、C1には全国大会出場経験のあるスポーツ推薦の学生も含まれている。Aチー

表2 チーム別のTSMI

	Aチーム (N=34)		Bチーム (N=16)		C1チーム (N=9)		C2チーム (N=10)		C3チーム (N=8)		有意差
	MEAN	SD	MEAN	SD	MEAN	SD	MEAN	SD	MEAN	SD	
目標への挑戦	6.12	1.98	5.31	2.70	4.78	1.72	5.30	2.06	6.88	1.46	
技術向上意欲	5.47	2.49	4.81	2.76	5.56	1.24	4.30	1.83	5.25	1.75	
困難の克服	5.26	2.72	6.75	5.46	5.33	1.87	4.20	1.75	4.13	1.25	
練習意欲	5.38	2.16	4.38	2.39	4.44	1.33	5.10	1.97	6.25	1.28	
情緒安定性	6.18	1.78	6.81	1.47	6.33	1.66	4.90	1.52	5.63	1.30	
精神的強靱さ	6.06	1.95	6.69	1.78	5.56	1.42	4.80	1.75	5.75	1.83	
闘志	6.09	2.21	5.94	2.46	6.22	2.49	5.70	2.21	6.38	2.13	
競技価値観	5.47	2.34	4.94	2.11	4.33	2.06	4.80	2.44	6.75	2.19	
計画性	5.50	2.05	5.00	2.10	5.22	1.39	4.80	0.93	4.50	1.77	
努力への因果帰属	4.00	2.35	3.94	1.53	3.11	1.76	3.60	2.17	4.00	0.76	
知的興味	4.79	2.46	4.06	2.02	4.22	2.22	3.90	2.47	7.75	1.16	p<0.05
勝利志向性	4.76	2.05	4.38	1.67	3.67	2.12	4.00	1.33	5.50	1.69	
コーチ受容	2.71	1.99	2.75	1.24	2.44	0.73	2.90	1.52	4.13	0.99	
IAC(対コーチ不適応)	7.26	1.97	7.00	1.55	6.78	2.05	7.10	0.88	6.00	1.51	
失敗不安	3.21	2.25	2.63	1.75	3.78	1.09	5.40	2.55	4.00	2.20	p<0.05
緊張性不安	3.21	2.10	2.56	1.31	4.44	0.88	5.40	2.32	5.38	1.06	p<0.001
不節制	4.06	2.31	4.38	2.55	5.44	2.01	6.20	2.15	6.13	2.23	p<0.05

ムからC2チームまでのサッカー部員は大学寮で生活しているが、C3チームのみは自宅あるいは下宿からの通学者である。各チームごとの結果を表2に示す。

TSMIの各尺度について、1要因の分散分析を行った結果、知的興味 ( $F(4,72)=4.41 \ p \leq .05$ )、失敗不安 ( $F(4,72)=3.08 \ p \leq .05$ )、緊張性不安 ( $F(4,72)=6.56 \ p \leq .001$ )、不節制 ( $F(4,72)=2.77 \ p \leq .05$ ) について、条件の要因は有意であった(図2)。更にこれらの尺度について多重比較を

行った。その結果、知的興味についてはC3の得点はA、B、C1、C2のいずれのチームよりも大きいことが明らかになった ( $MSe=5.16 \ p \leq .05$ )。失敗不安は  $A < C2$ 、 $B < C2$  ( $MSe=4.38 \ p \leq .05$ )、緊張性不安は  $A < C2$ 、 $A < C3$ 、 $B < C1$ 、 $B < C2$ 、 $B < C3$  ( $MSe=3.24 \ p \leq .05$ ) となり、A、Bチームのほうが不安傾向が低い傾向が見られた。不節制については  $A < C2$ 、 $A < C3$  の傾向がみられた ( $MSe=5.31 \ p \leq .05$ )。

### Ⅲ. 学年別の分析結果

国士館大学サッカー部を学年ごとに分け(4年18名、3年7名、2年21名、1年31名)、分析した結果を表3に示す。各尺度について1要因分散分析を行った結果、コーチ受容について有意差が認められた ( $F(3,73)=3.90 \ p \leq .05$ )。多重比較の結果、1年生は他の学年に比べコーチ受容傾向が強いことが明らかになった ( $MSe=2.38 \ p \leq .05$ )。

### Ⅳ. 出場大会別

出場大会はこれまで出場したことのある最も高いレベルの大会を記入してもらった。未記入の者6名と地域大会に出場した選手1名を除外し、国際大会に出場した選手15名、全国大会に出場した選手34名、都道府県大会に出場した選手17名、地

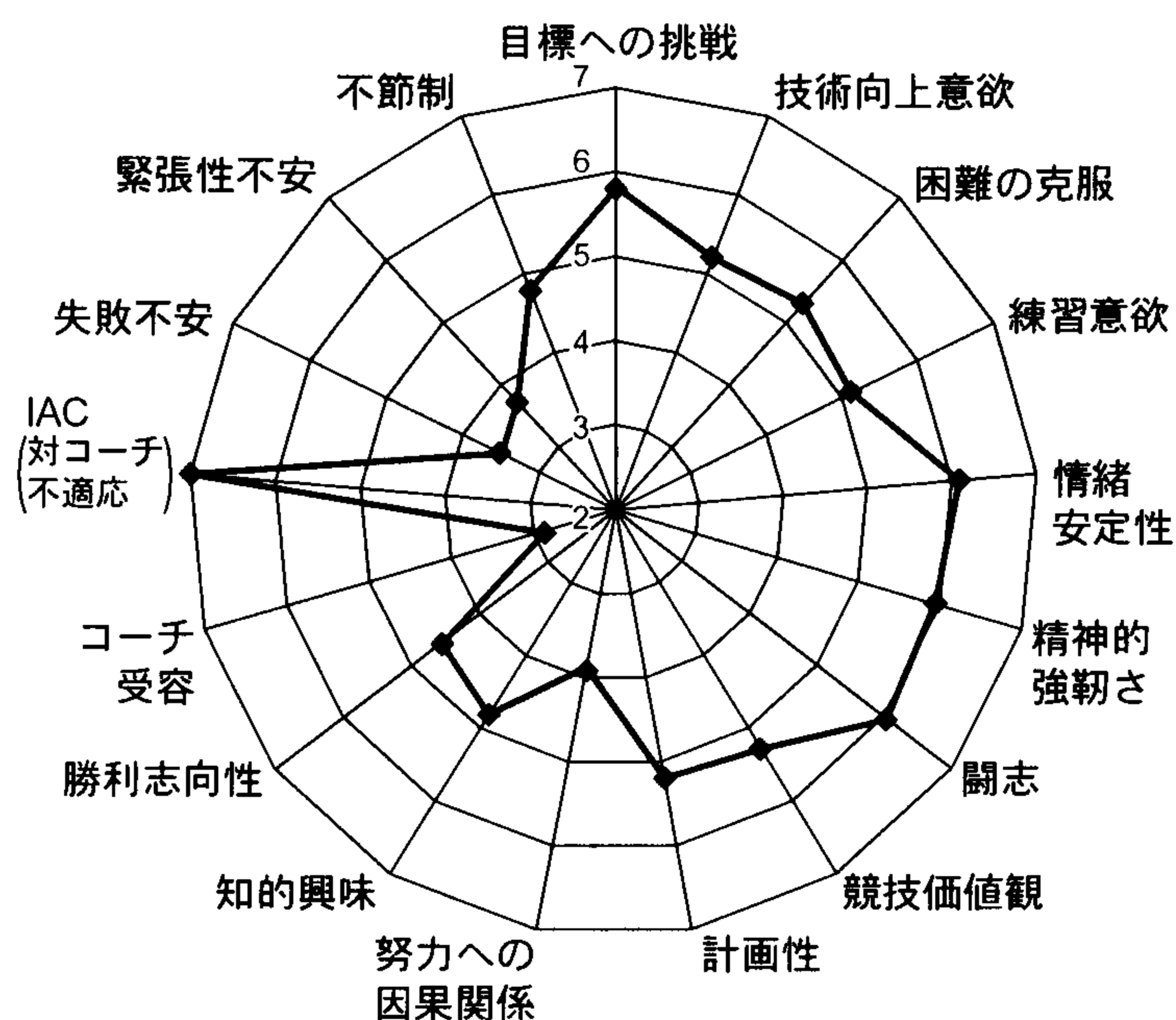


図1 国士館大学サッカー部のTSMI得点

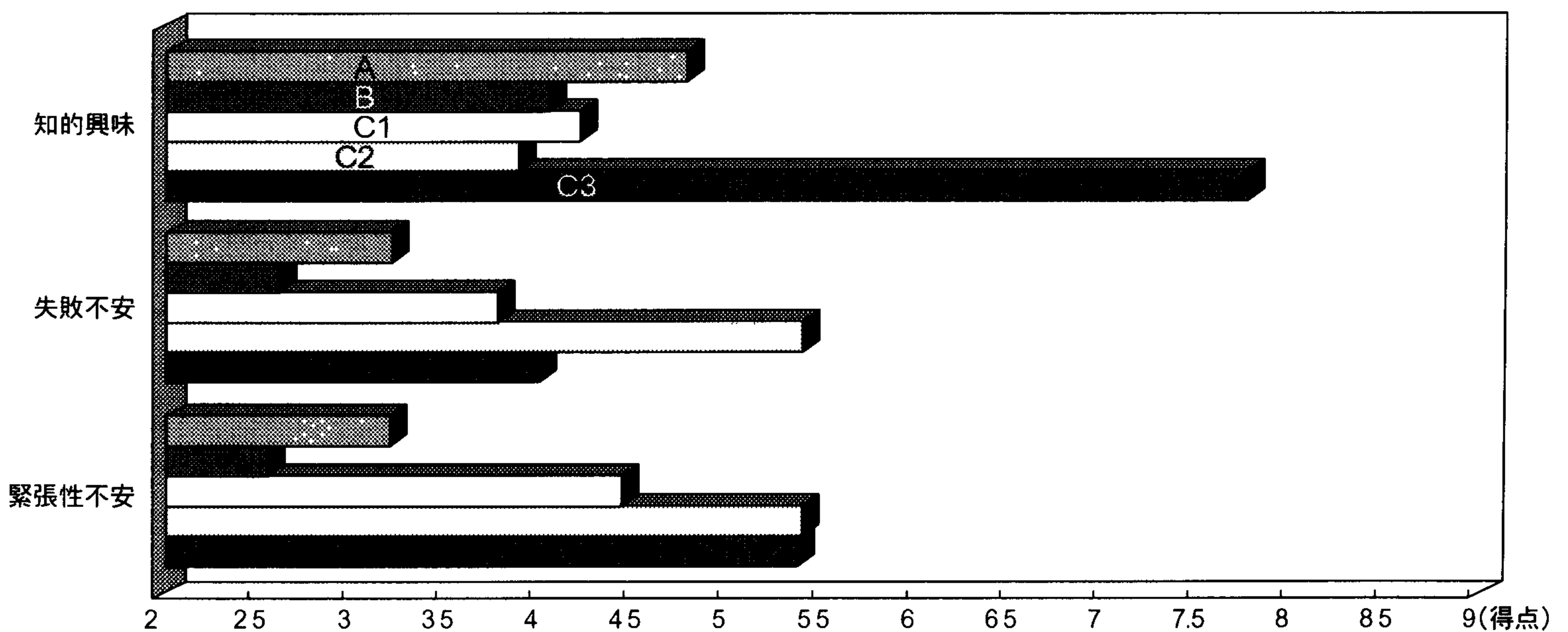


図2 チーム別のTSMI比較

表3 学年別のTSMI

	4年生 (N=18)		3年生 (N=7)		2年 (N=21)		1年 (N=31)		有意差
	MEAN	SD	MEAN	SD	MEAN	SD	MEAN	SD	
目標への挑戦	5.61	2.23	5.86	3.02	5.57	2.09	5.97	1.96	
技術向上意欲	4.83	2.77	4.43	3.26	5.52	2.04	5.29	1.92	
困難の克服	6.11	5.53	4.57	3.46	5.38	2.20	5.00	1.90	
練習意欲	5.00	2.38	5.00	2.65	5.43	1.99	5.00	1.88	
情緒安定性	5.78	1.96	6.57	2.44	6.43	1.33	5.97	1.58	
精神的強靱さ	5.94	2.26	6.57	1.81	5.76	1.48	5.90	1.92	
闘志	5.00	2.52	7.43	2.15	6.29	2.03	6.19	2.06	
競技価値観	4.67	2.52	5.43	2.44	5.00	2.17	5.77	2.20	
計画性	4.67	2.30	5.14	2.27	5.43	1.80	5.29	1.75	
努力への因果帰属	3.78	2.26	3.00	2.08	3.86	2.22	4.03	1.60	
知的興味	4.00	2.83	5.00	1.91	4.33	2.15	5.45	2.41	
勝利志向性	3.78	1.70	4.86	2.79	4.29	1.68	5.06	1.81	
コーチ受容	2.50	1.69	2.14	1.46	2.33	0.97	3.58	1.77	p<0.05
IAC(対コーチ不適應)	7.28	1.81	7.86	1.46	7.43	1.12	6.35	1.96	
失敗不安	4.11	2.93	3.14	2.61	2.95	1.40	3.65	2.07	
緊張性不安	4.22	2.76	3.43	2.70	3.10	1.14	3.94	1.88	
不節制	4.44	2.57	4.57	2.51	4.86	2.48	4.97	2.34	

表4 出場大会別のTSMI

	外国での国際大会 (N=12)		国内での国際大会 (N=3)		全国大会 (N=34)		都道府県大会 (N=17)		地区大会 (N=4)		有意差
	MEAN	SD	MEAN	SD	MEAN	SD	MEAN	SD	MEAN	SD	
目標への挑戦	6.73	2.15	7.67	2.31	5.38	1.94	5.59	2.21	5.75	2.50	
技術向上意欲	5.73	2.75	6.67	3.21	5.35	2.12	4.65	2.40	4.50	1.91	
困難の克服	5.93	2.84	7.33	2.89	5.76	4.11	4.65	2.26	4.00	2.16	
練習意欲	5.60	2.61	5.67	2.08	4.76	2.13	5.06	1.71	6.00	1.15	
情緒安定性	7.47	1.62	7.00	2.00	6.35	1.28	5.18	1.67	4.25	1.26	p<0.001
精神的強靱さ	6.47	1.88	6.00	2.65	6.41	1.65	5.06	2.01	4.25	2.22	p<0.05
闘志	6.73	2.78	7.33	2.08	6.21	2.10	5.47	2.27	4.75	2.99	
競技価値観	5.87	2.37	6.00	1.73	5.29	2.17	5.00	2.21	4.50	2.52	
計画性	5.47	2.76	6.67	1.53	5.24	1.72	5.35	1.80	3.00	2.16	
努力への因果帰属	4.53	2.11	5.00	0.00	3.74	2.21	3.88	1.65	2.75	1.26	
知的興味	4.86	2.66	4.67	1.53	4.68	2.06	5.24	2.86	4.75	3.50	
勝利志向性	4.87	1.47	3.67	2.52	4.44	2.03	4.71	1.69	3.75	1.71	
コーチ受容	3.07	2.21	2.67	1.53	2.47	1.38	3.47	1.77	2.75	0.50	
IAC(対コーチ不適應)	6.73	2.39	7.33	1.53	7.44	1.52	6.41	1.62	7.00	2.16	
失敗不安	2.53	1.40	4.00	2.65	3.06	1.91	5.00	2.15	5.25	2.63	p<0.01
緊張性不安	2.67	1.68	3.33	2.52	3.15	1.60	5.18	1.81	5.75	2.36	p<0.001
不節制	3.80	2.38	4.00	2.65	4.79	2.25	5.59	2.06	6.25	3.20	



区（市・町・村）大会に出場した選手 4 名に分類し分析した。

出場大会別の結果を表 4 に示す。

各尺度について 1 要因分散分析を行った結果、情緒安定性 ( $F(3,66)=9.05$   $p \leq .001$ )、精神的強靱さ ( $F(3,66)=3.57$   $p \leq .05$ )、失敗不安 ( $F(3,66)=6.05$   $p \leq .01$ )、緊張性不安 ( $F(3,66)=8.88$   $p \leq .001$ ) について有意差が認められた。更に多重比較を行った結果、情緒安定性の得点は、国際大会 > 全国大会 > 県大会 = 地区大会であった ( $MSe=2.13$   $p \leq .05$ )。精神的強靱さの得点は、国際大会 = 全国大会 > 県大会 = 地区大会であった ( $MSe=3.39$   $p \leq .05$ )。失敗不安の得点は、国際大会 = 全国大会 < 県大会 = 地区大会であった ( $MSe=3.91$   $p \leq .05$ )。緊張性不安の得点は、国際大会 = 全国大会 < 県大会 = 地区大会であった ( $MSe=3.01$   $p \leq .05$ )。

V. 経験年数別

経験年数別（13年以上39名、11・12年21名、10年以下17名）に分析した結果を表 5 に示す。

各尺度について 1 要因分散分析を行った結果、情緒安定性 ( $F(2,74)=10.43$   $p \leq .001$ )、精神的強靱さ ( $F(2,74)=6.17$   $p \leq .01$ )、失敗不安 ( $F(2,74)=4.88$   $p \leq .01$ )、緊張性不安 ( $F(2,74)=4.64$   $p \leq .05$ ) において有意差が見られた。これらの項目について更に多重比較を行った。その結果、各尺度の得点の大小関係は、情緒安定性は13年以上 = 11・12年 > 10年以下 ( $MSe=2.29$   $p \leq .05$ )、精神的強靱さは13年以上 = 11・12年 > 10年以下 ( $MSe=3.07$   $p \leq .05$ )、失敗不安は13年以上 = 11・12年 < 10年以下 ( $MSe=4.41$   $p \leq .05$ )、緊張性不安は13年以上 = 11・12年 < 10年以下 ( $MSe=3.83$   $p \leq .05$ ) であった。

表5 経験年齢別のTSMI

	13年以上 (N=39)		11, 12年 (N=21)		10年以下 (N=17)		有意差
	MEAN	SD	MEAN	SD	MEAN	SD	
目標への挑戦	5.82	2.22	5.33	2.29	6.18	1.67	
技術向上意欲	5.13	2.38	5.19	2.54	5.24	1.82	
困難の克服	5.77	4.07	5.00	2.28	4.71	2.02	
練習意欲	5.33	2.13	4.33	2.18	5.59	1.58	
情緒安定性	6.21	1.52	7.00	1.55	4.76	1.44	$p < 0.001$
精神的強靱さ	6.18	1.76	6.52	1.60	4.65	1.90	$p < 0.01$
闘志	5.69	2.40	6.95	1.99	5.76	1.92	
競技価値観	5.51	2.28	4.71	2.15	5.41	2.50	
計画性	5.26	1.94	5.05	1.86	5.12	2.12	
努力への因果帰属	3.95	2.18	3.86	1.77	3.53	1.77	
知的興味	4.69	2.42	4.38	2.48	5.41	2.48	
勝利志向性	4.54	2.09	4.52	1.81	4.53	1.59	
コーチ受容	2.64	1.66	3.05	1.88	3.12	1.17	
IAC (対コーチ不適応)	6.95	1.75	7.38	1.83	6.65	1.66	
失敗不安	3.28	2.27	2.86	1.53	4.88	2.29	$p < 0.01$
緊張性不安	3.41	2.20	3.29	1.45	5.00	1.90	$p < 0.05$
不節制	4.23	2.47	5.38	2.22	5.29	2.34	

Ⅵ. ポジション別

ポジション別（GK 5名、DF26名、MF34名、FW12名）に分析した結果を表6に示す。

各尺度について1要因分散分析を行った結果、いずれの尺度についても有意な差は見られなかった。

考 察

表1に示したように国士舘大学サッカー部全体の心理的特徴としては「情緒安定性」「精神的強靱さ」「闘志」といった自己統制能力に特に優れ、「失敗不安」「緊張性不安」といった競技不安を持たない傾向があった。また、「目標への挑戦」「技術向上意欲」「困難の克服」「練習意欲」といった競技達成動機も比較的高い得点を示している。その一方で、「努力への因果帰属」「コーチ受容」に劣り、「IAC（対コーチ不適応）」が示されている。本学は平成10年度の関東大学リーグ戦で優勝し、

続くインカレで2冠を達成している、いわば大学サッカーのトップチームのひとつである。そのため、自然に人材も集まり、高校生までに全国の大舞台を経験している選手も少なくない。その自信からか、試合での成功や技術の向上を努力以外の個人の才能や能力に帰属すると考える傾向が見られる。さらにコーチとの関係では人間関係が深くなく、コーチの指示に対する従順さに欠けている。この理由のひとつとしては大学生ともなるとコーチに依存するよりもむしろ自主的に判断して行動するからだと考えられる。本学サッカー部の指導もコーチ主導型というよりは選手の自主性を重んじ選手中心のチームづくりを行っている。そのため心理面でもこうした結果があらわれたのではないだろうか。また、本学サッカー部の指導者たちはすべて大学の教職員のためにクラブ以外でも学生と関わり合いをもつ。したがって、サッカーの技術・戦術面だけの指導にとどまらず、生活態度や学業全体を包括して指導していることが多いた

表6 ポジション別のTSMI

	GK (N=5)		DF (N=26)		MF (N=34)		FW (N=12)	
	MEAN	SD	MEAN	SD	MEAN	SD	MEAN	SD
目標への挑戦	6.60	2.30	6.27	1.69	5.26	2.22	5.75	2.53
技術向上意欲	5.60	2.97	5.62	2.37	4.76	2.08	5.17	2.48
困難の克服	5.00	2.45	6.69	4.44	4.50	2.11	4.83	2.62
練習意欲	5.60	3.21	5.58	2.10	4.85	1.89	4.67	2.02
情緒安定性	5.20	1.79	6.27	1.97	6.03	1.40	6.33	1.83
精神的強靱さ	5.80	2.05	5.81	2.04	5.88	1.81	6.42	1.73
闘志	6.60	2.88	6.27	1.93	5.91	2.37	5.75	2.42
競技価値観	6.00	3.00	5.65	2.24	5.26	2.18	4.17	2.33
計画性	5.60	1.82	5.35	2.10	5.03	1.71	5.00	2.37
努力への因果帰属	4.20	2.05	4.58	2.32	3.24	1.62	3.75	1.66
知的興味	5.00	2.00	5.27	2.29	4.47	2.46	4.42	2.94
勝利志向性	4.80	2.95	4.73	1.66	4.50	2.03	4.08	1.56
コーチ受容	2.20	1.79	2.69	1.19	3.03	1.71	3.00	2.17
IAC(対コーチ不適応)	7.40	1.52	7.08	1.74	6.79	1.67	7.25	2.18
失敗不安	4.60	3.51	3.50	2.20	3.53	2.18	3.08	1.78
緊張性不安	4.20	3.27	3.81	1.96	3.88	2.06	2.92	1.68
不節制	4.60	2.88	4.00	2.04	5.53	2.54	4.42	2.23

め、コーチに対して相入れない部分があるのかもしれない。

チーム別では競技レベルの高いチームの方が試合場面で落ち着いていて、冷静な判断が下せる傾向が見られた。また、不利な状況や競い合っている場面においても精神的な強靱さを発揮できると考えられる。これは競技レベルの高いチームの方が公式試合へ出場する機会が多く、試合慣れしているからだと思われる。競技レベルの低いチームと比較して競技レベルの高いチームでは失敗不安と緊張性不安がないという結果が得られている。これも数々の試合を経験し自分自身のプレイに自信を持っているからであろう。また競技レベルの低いチームの方が不節制な傾向が観察された。先行研究によると不節制の項目は中高生やプロ選手で低い得点を示す一方で、大学生は比較的高い得点であった<sup>3)8)9)</sup>。その中でA・Bチームの示した得点は比較的低い値である。実際、本学のトップチームの選手たちはリーグ戦以外にもJFL参加を含めて一般大学のサッカー選手と比較して3倍近くの試合数を1年間にこなさなくてはならない。そのなかで常に実力を発揮するためにはコンディションを整えるといった自己管理は不可欠であり、選手たちは経験的に体調を整えるすべを知っていると考えられる。

自宅通学者で構成されているC3チームは知的興味でずば抜けて高い得点を示し、他のチームと比較して有意な差があった。これは寮生活をしていると日常的に先輩や他の選手との交流が深まるのに対して、自宅通学者ではクラブの練習時間以外での交流は困難なため情報は得にくい。そこで自分自身で積極的に知識を高めようとする気持ちが表れたのだと推測される。

学年別では1年生の方が上級生に比べてコーチ受容の項目で有意な差を示した。一般にコーチ受容は少年期の方が高く、大学生ともなるとすでに自己の確立ができていますので相対的にコーチ受容が低い傾向が示される。その中で本学の1年生はクラブに限らず大学生活にも未だ不馴れなため指

導者を頼る傾向があるためコーチの助言や指示への従順さが示されたのではないかと考えている。

出場大会経験別では高いレベルの大会へ出場している選手の方が情緒安定性や精神的強靱さがあり、失敗不安や緊張不安が見られない傾向が得られた。これはチーム別や経験年数別の分析結果ときわめて類似した傾向である。AチームやBチームの90%近くは国際試合や全国大会に出場した経験をもっている。一方、C1チームではその割合は60%まで減少している上、C2・C3チームにおいては国際試合経験者は皆無であり、半数近くは県大会出場レベルまでであった。経験年数に関してもAチームは13.1年と最も長く、経験年数が8年しかないC3と比較して試合経験も豊富である。高いレベルの大会にも出場した経験が豊富であれば、精神的にプレッシャーに強く、いかなる試合場面でも落ち着いて冷静な判断が下せるであろう。また、経験を重ねている事が失敗や緊張に対する不安を取り除いていると考えられる。

このように、試合で持てる力を十分に発揮し、なおかつ冷静な判断を失わない精神的な能力は競技能力の向上並びに高レベルな大会の出場経験とともに備わっていくと考えられる。本大学サッカー部は平成10年からはJFL (Japan football League) に参加したためプロ選手を相手に年間20以上の試合をこなしている。残念ながらJFLでは平成10年、11年と下位の成績しか残せていないが、プロ選手との試合経験はサッカー部員に大きな影響をもたらしている。現実にはプロ選手に対抗するための技術面での進歩ばかりでなく、むしろ厳しい自己評価に裏打ちされた精神面においてめざましい向上が見られる。本調査結果からもこうした精神面での成長が伺うことができる。

今後、さらにJFLでの上位成績を残すためには技術向上意欲や練習意欲といった競技達成のための意識を高く持ち続けることやコーチとのコミュニケーションをはかることが精神面での底上げに繋がると考えられる。



## 結 論

競技者のパフォーマンスを左右する要因の1つとして心理的要因が大きな影響を及ぼす。ここでは本大学サッカー部員を対象にTSMIを用いての調査を行い、同一クラブ内における競技レベルの違いや生活環境の差違が競技意欲に対してどのような違いをもたらしているのかを比較分析した。

- 1) TSMIの結果から本大学サッカー部員は自己統制能力を示す「情緒安定性」「精神的強靱さ」で高得点を示すほか競技不安をあまり感じない傾向が観察された。一方、「努力への因果帰属」や「コーチ受容」では低得点を示した。
- 2) チーム別の比較においては、競技レベルが上がるほど、安定した情緒と強靱な精神力を持つ傾向が高く、失敗不安と緊張性不安を抱く傾向が低かった。知的興味に関しては、競技レベルの低くかつ自宅通学者のチームが、顕著に高かった。
- 3) 学年別の比較においては、1年生は他学年と比べてコーチに対する信頼や従順な態度が観察された。
- 4) 出場大会経験別の比較においては、高いレベルでの大会に出場経験のある選手の方が安定した情緒と強靱な精神力を持つ傾向が高く、失敗不安と緊張性不安を抱く傾向が低かった。この傾向は経験年数別での調査結果に近似していた。

## 引用・参考文献

- 1) 磯貝浩久, 小野太佳司, 木幡日出男, 富岡義雄, 松原裕: Dual Construction Personality Modelからみたサッカー選手の心理的適性とチームの集団凝集性との関係, 日本サッカー協会科学研究部報告書, 32-38, 1988.
- 2) 木幡日出男, 戸苅晴彦, 杉山進, 岩村英吉, 富岡義雄, 松原裕, 福井哲, 江口潤: 中学生サッカー選手の心理的適性, 第7回サッカー医・科学研究会報告書, 108-114, 1987.
- 3) 木幡日出男: 一流サッカー選手の心理的適性と競技行

動について, 東京商船大学研究報告, 人文科学, 41: 75-87, 1990.

- 4) 松田岩雄, 石井源信, 猪俣公宏, 落合優, 加賀秀夫, 下山剛, 杉原隆, 藤田厚: スポーツ選手の心理的適正に関する研究(第1報, 第2報), 昭和55年度日本体育協会スポーツ医科学研究報告, 1982.
- 5) 松田岩雄, 石井源信, 猪俣公宏, 落合優, 加賀秀夫, 下山剛, 杉原隆, 藤田厚: スポーツ選手の心理的適正に関する研究(第3報), 昭和56年度日本体育協会スポーツ医科学研究報告, 1983.
- 6) 松田岩雄, 石井源信, 猪俣公宏, 落合優, 加賀秀夫, 下山剛, 杉原隆, 藤田厚: スポーツ選手の心理的適正に関する研究(第4報), 昭和57年度日本体育協会スポーツ医科学研究報告, 1984.
- 7) 前田博子: 日本女子代表チームに関する研究(I)—競技に関わる意識について—, 第13回サッカー医・科学報告書, 13:43-48, 1993.
- 8) 高橋章: サッカー選手の競技意欲に関する研究, 高崎経済大学論集, 34(2):155-173, 1991.
- 9) 徳永幹雄: 競技者の心理的コンディショニングに関する研究—試合前の心理状態の診断法の開発—, 健康科学, 20:21-30, 1998.